

【概要】

当院の看護師のインシデントレポートで、フルネーム確認や電子認証の不徹底やオーダー確認不足による点滴設定ミスなどローカルルールによると思われる内服や注射関連の事例が散見されている。事例を検証すると、目的が何かを理解せずにただ作業を実施しているのではないかという問題が挙がり、医療安全への認識や安全面での気づきがあるのかということが危惧された。そこで、看護師の医療安全への認識を高め、リスク感性を高めていく教育が必要と考え、危険を予知しリスク感性を高める危険予知トレーニング（以下 KYT とする）に着目した。当院でもすでに KYT を実施しているが、実践に活かせる内容に見直し、看護師の教育に活かすことに取り組んだ。安全管理部と KYT の内容について検討し、インシデントの要因を分析し、気づきにスポットを当てるような方法を組み入れることとした。次年度からは看護部の安全管理担当者会（以下担当者会とする）のリンクナースが自部署の安全管理教育を計画し Off-JT で行っていく。

【背景】

安全と質を担保するためには教育が重要であることから、私は副看護部長として、安全と質・危機管理担当に加え、教育の役割を一部担っている。看護師からのインシデントレポートは年間約 3000 件あり、その内訳では、ドレーン管理、内服薬、転倒転落、注射薬が多い。フルネーム確認や電子認証の不徹底やオーダー確認不足による点滴設定ミスなどマニュアルから逸脱したローカルルールによると思われる内服や注射関連の事例が散見されている。事例を検証すると、点滴接続の際の電子認証も、正しい方法で実施されずに患者誤認を起す等、目的が何かを理解せずにただ作業を実施しているのではないかという問題が挙がり、医療安全への認識や安全面での気づきがあるのかということが危惧された。そこで、看護師の医療安全への認識を高め、リスク感性を高めていく教育が必要と考えた。現在、安全管理に関する研修や教育は、講義や文書等で伝える受動的な方法が主だが、デールの経験の円錐では、かわり方が受動的から能動的に変化していくことに比例して学習効果が上昇すると言われている。それには、危険を予知しリスク感性を高める KYT が有効ではないかと考えた。当院では、新採用者対象に多職種での KYT 研修や各部署でインシデントを用いた KYT を年 2 回推奨している。現在の KYT を実践に活かせる内容に見直し、看護師の教育に活かしていきたい。

【実践計画】

目標

- 1) 各部署での KYT の方法の見直しと、担当者会のリンクナース対象として実践に活かせる研修内容を検討する。
- 2) 看護師の毎年の継続教育に研修を計画する。
- 3) 担当者会のリンクナース 22 人に医療安全への認識を調査する。（結果は担当者会で報告）

巻き込む対象：安全管理部、担当者会のリンクナース 22 人

計画

- 1) 10 月に上記の対象に、今回の目的と計画について説明し、理解を得る。
文献や他施設の研修などから、有効な取り組みの情報を得る。
- 2) 11 月に担当者会を通して看護師の認識調査を実施する。

平成30年度国公立大学病院副看護部長研修「報告書」

- 3) 1月までに、教育内容を検討する。(内容・時間・時期・回数等) 次年度の継続教育に計画する。
- 4) 1月の担当者会で、KYT 研修を試行する。
- 5) 2月までに、詳細な内容を検討する。(シナリオなど)

評価方法

- 1) 看護師の認識調査 11月・1月
- 2) 教育計画を立案し、次年度の看護師の継続教育に入れることができる。

【結果】

10月に安全管理部に今回の目的と計画について説明し理解を得て、KYTの内容について検討した。最近のインシデントでは、対策を立案することを急ぎ、要因の検証が不十分であることが問題として挙げられたため、今回のKYTでは、現行の危険を予知して対策を立案する方法ではなく、インシデントの要因を分析し、気づきにスポットを当てるような方法を組み入れることとした。また、当初集合教育も検討したが、参加者数が限定されるため、部署で多数の看護師に実施できる研修に変更し内容を検討した。年2回(7月・11月)担当者会で、リンクナースに分析するインシデントのテーマを説明し、各部署でリンクナースがKYTを用いて、自部署の安全管理教育を計画しOff-JTで行っていくこととした。11月の担当者会で、最近のインシデントの問題と次年度からのKYTの内容変更について説明した。

2月の担当者会で次年度からのKYTを試行した。小グループに分かれ、患者誤認をテーマに10分間で分析と発表を行ったが、通常の1件のインシデントレポートより多くの要因が挙げられた。

認識調査は今後も継続して評価していくために、毎年2回/年実施している電子認証に関する行動調査の内容を変更し、実施した。

【評価及び今後の課題】

行動調査は、1月の担当者会で実施する予定であったが、2月開催となったため結果の評価は間に合わなかった。教育は、現状のインシデントレポートの問題を反映して、KYTをインシデントの要因を分析し、気づきにスポットを当てるような内容で検討できた。次年度からリンクナースを通して、部署の安全管理教育を計画し実施していく。また、行動調査とインシデントの内容から、教育の有効性を評価していく。